

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	児童発達支援リトルスター					公表日	2025年 5月 26日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		活動スペースとは別に訓練室を設けており、活動内容に合わせたスペースでの活動が出来るようになっています。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		基準以上の人員配置をしています。利用児童数に応じた職員配置ができるよう心掛けています。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		基本的なバリアフリーの対応。階段があるがエレベータを設置しています。	個別の障がいには個別対応していけるようにする。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		清潔な環境が提供できるよう、清掃箇所を定めたチェックシートに基づき、日々の清掃を行っています。子供たちが十分に活動できるよう、活動に合わせて空間の使用方法を変えています。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		機能訓練室があるので必要に応じて使用できるようになっています。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	2	取り組みに関して期限を設け目標設定に対する振り返り、見直しが出来るようにしています。	PDCAサイクルシートの活用を全職員に周知し、支援や業務改善に活かせるように取り組む。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		ミーティングにて保護者からの意見の共有と改善策につて話し合う機会を設けています。	ミーティングで話し合われた内容を改善に向けて日々の支援や保護者対応に取り組む。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		業務改善シートの活用、日々のミーティングで意見を聞く機会を設けている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3		外部評価の委託はありません。今後検討していきたいと思います。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		自由に受講できるオンライン研修があります。研修受講の機会が確保されています。法人内研修の開催もあります。	オンライン研修受講機会を確保し、各職員が学習できる機会を前年度以上に増やしていく。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		作成とホームページでの公表がされています。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		アセスメント、モニタリング、関係機関との会議を行い、こどもと保護者のニーズに合わせた個別支援計画の作成を心掛けています。	児童の担当職員を固定化せず、広い視野で分析できるように取り組む。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		ミーティングや、担当職員からの聞き取り、担当職員同伴でのモニタリング参加ができるよう取り組んでいます。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		ミーティングでの共有以外に、日々の活動・支援の際にも繰り返し共有するようにしています。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	3	標準化されたアセスメントを使用しています。	今年度より、日々の行動観察を含むより細かいアセスメントの使用を開始し、共通した発達水準の把握が出来るよう工夫しています。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		家族交流会、勉強会の開催や、親子行事など法人、事業所ともに交流の場を設けるよう企画しています。また、積極的に保育園等との情報共有や目標の共有を行っています。	交流会や勉強会など家族の参加を増やしていけるよう、行事内容の丁寧な説明と、参加したくなるような楽しい行事開催が出来るよう取り組む。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		職員で話し合い、子供たちそれぞれが楽しめるよう話し合っている。最終目標・目的を分けたプログラムを設置することで、全児童に対応できるよう工夫しています。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		学習機会と共有の場を設け、新しいプログラムにも積極的に取り組める環境があります。			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		時間帯で、個別活動の時間と全体活動の時間を設けています。毎日全体活動があることで集団参加への訓練を意識しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	3	支援内容について事前の打ち合わせで周知できるようにしています。またホワイトボードの記入するなど目に入る共有を心掛けています。	送迎などもあり、全職員での十分な打ち合わせができず、支援直前に慌たしくなることがある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	3	個別に良かった点、気になる点を振り返り共有している。	支援後は送迎があり、その日のうちに全員での振り返り・共有はできていない。記録での確認、翌日以降の共有になる。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3	2	連絡帳、予定表（バイタル・申し送り等を記載）、個別記録などの記録をとっている。	記入内容に不十分なところがあると感じている。記録書き方についての学習会を開催予定です。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的にモニタリングを行い、必要に応じて個別支援計画書の見直しを行っています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児童発達管理責任者、可能であれば担当の職員も参加します。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	必要に応じて必要な機関との連携をとっています。	主に児発管が対応しています。職員間で支援体制の周知が行えるように取り組みます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		地域で過ごす時間を大切に、保育園やこども園との細かい情報共有の場を設けるようにしています。日々の申し送り以外にも、必要に応じて会議や電話連絡を取り合っています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	2	就学時の相談は保育園等との連携と保護者との連携を十分に取るようにしています。	保護者や園を通した情報共有のみで、小学校との直接連携は出来ていません。就学先訪問など相互の情報共有が図れるように取り組みます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	2	児童発達センターの相談窓口の案内を職員に共有しています。また情報提供の依頼や、必要に応じて助言を受けるようにしています。	職員間で周知できていないので、改めて共有します。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	全員が保育園からの来所となり、園で過ごし十分に地域の子供たちと過ごすことが出来ています。	事業所としての地域交流機会を設けることが出来ていないので、地域資源の活用を行い、児童館や公園等での交流機会を増やしていきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	1	お便り帳、送迎時の申し送りなど会議やモニタリング以外にも、日々の状況を伝えるようにしています。	退勤時間の関係で、保護者との対面機会が少ない職員もいます。事業所として、保護者との共通理解をしていきたいと思っています。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	家族参加の研修の実施があります。	ペアレントトレーニングの開催を企画したいと思っています。また、法人・事業所の提供する研修会があることを職員間で周知したいと思っています。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		利用契約時には丁寧な読み合わせを心がけています。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		フェイスシートやモニタリングでの聞き取りなど、意向を聞き取る機会を設け、個別支援計画書に反映できるよう支援計画を練っています。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		支援内容の説明は、個別支援計画書を示し説明と同意を得ています。	個別支援計画書説明のための時間の確保が忙しいご家庭もあります。送迎時に保護者来所の負担なく説明機会を設けることが出来ればと思います。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		お便り帳や申し送りを通して発信される保護者からの相談には都度、電話や面談などのやり取りで相談機会を確保しています。	気軽に相談できる体制があることを周知していきます。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		法人、事業所内での取り組みとして家族交流行事の開催をしています。顔見知りになるご家族、ご兄弟も増えてきました。	多くの家族に楽しんで参加してもらえよう、日程調整や行事開催の周知に十分な期間を設けるなど工夫して取り組んでいきたいと思えます。
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		相談や申し入れに関しては都度、速やかに対応しています。	支援開始前の午前中の時間帯を相談業務に充てることが出来ます。保護者に周知していきたいと思えます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		法人での活動様子や行事内容を記載した通信の発行があります。また連絡体制としLINEも活用しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報の取り扱いには気を付けています。丁寧な説明を行い同意書（不同意含む）を取り、細心の注意を払って取り扱っています。	行事等での写真撮影もSNS等の転載は禁止しています。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		必要に応じ個別に対応しています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		法人や事業所にて、祭りやウォークラリー、作品展など地域の方の参加を促す行事があります。	
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		月に1回訓練を行うようにしています。
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	2	地震や津波・洪水警報を想定した避難訓練を行っています。また職員間で話し合う機会を設けています。	BCPの策定と周知に不足を感じているので、早急に周知できるよう取り組みます。
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		見学受付時の聞き取り、契約後の保険調査票で状況確認を行っています。	
48		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		アレルギー対象児童には細心の注意を払い対応しています。 現在アレルギー児童0名。	
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		救急救命の受講や、各行事や活動時には安全面に配慮された支援を行うよう心がけています。	
50		子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		必要に応じた安全対策等について説明するようにしています。また訓練での様子は家族と共有し、特に気になる課題点は丁寧に共有するよう心がけています。	
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1	法人全体で共有、押印し全員に見てもらおうようにしています。また、いつでも確認できるようフォルダが準備されています。	ヒヤリハットの周知が徹底されるよう全職員に再度声掛けをしていきます。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		法人内での研修、オンライン研修、外部研修の受講など全職員に研修機会が設けられています。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		身体拘束についても法人内の委員会で十分に話し合いがもたれています。必要に応じ身体拘束についての記載が出来るようフォーマットの準備もあります。	現在対象児0名。必要に応じ、事業所内での検討や保護者説明・個別支援計画書への記載が出来るよう話し合う機会を設けています。	